

テスト設計コンテスト OPEN クラス - ア

※全体でA4縦1ページに収まるように記述してください。		地域名	北海道
チーム ID	S260718001	チーム名	ミックスベジタブル

チーム紹介

テスコン参加しよう！と言い出しちゃのリーダーのもとに、同じ会社の興味津々なメンバーが一堂に会してできた即席のインスタントチームです。

所属も部署も拠点も異なりますが、設計の上達に対する熱い気持ちは皆同じです。

全員初参加ではありますが、限られた時間を精一杯楽しみながら、まずは予選突破を目指します！せっかくの特別枠、ここまで来たなら、優勝まで突き進め！！！

コンセプト

「ビジネス価値」を守り、「変化」に強い持続可能なテスト設計

～“密回避”というビジネスゴールを起点にリスク強度に応じたテスト設計と、仕様変更を自動反映する仕組みの実装～

工夫点

① ビジネスゴールに直結するリスク強度別の優先度設計

単に機能を網羅するのではなく、だんだん動物園の最重要課題である「密回避(密集回避)」と「安全な入場体験」を起点にテストを設計しました。

工夫

「予約→発券→入場」というユーザ一体験の流れを重視したシナリオを定義し、特に「同時購入による過販売(定員超過)」や「システム間連携の不整合」といった、ビジネス上の致命的なリスクが高い箇所にリソースを集中させました。

効果

316 項目の機能に対し、リスクの高さ(高・中・低)に応じた濃淡をつけることで、限られた期間・リソースの中で「品質説明責任」を果たせる論理的な構成としました。

② 誰にでも伝わる「平易な言葉」による属人化の排除

テスト設計書を「エンジニアだけのもの」にしないため、専門用語を排除し、だんだん動物園・だんだん市など関係者全員が直感的に理解できる記述を意識しました。

- 内部処理の名称(パラメータ名等)ではなく、「チケットが発券されること」「ゲートが開くこと」といった、ユーザーから見える「振る舞い」や「状態」を中心とした自然言語で記述しました。
- 開発者だけでなく、動物園の運営スタッフや企画担当者が読んでも内容を検証可能にしました。これにより、認識齟齬による手戻りを防ぐとともに、特定の担当者しかメンテナンスできない「属人化リスク」を解消しました

③ 仕様変更に即応する持続可能なテスト設計ツール「Re:Spec(リ・スペック)」の導入

将来的なチケット価格改定やゲート台数の増減(今回のような1台→3台への変更)といった「仕様変更」が頻発しても、テスト設計書を手作業で修正するコストを低減する仕組みを構築しました。

工夫

設計書内の変動する数値(金額、台数、時間枠など)を「変数」として扱い、別シートの「閾値」を変更するだけで、

テストケースの行増殖や値の置換を自動で行うツール「Re:Spec」の設計・導入を行いました。

効果

変更時のヒューマンエラーを排除し、動物園の運営が続く限り使い回せる「持続可能なテスト設計」を実現しました。

テスト設計コンテスト OPEN クラス - ア